

【 復活のトロパリ 第2調 】

し せ ぎ る い の ち よ 、 な ん ぢ し に く だ り し  
 死 生 命 爾 死 降

と お き 、 か み の せ い の ひ か り に て ぢ ご  
 時 神 性 光 地 獄

く を こ ろ せ え り 。 し せ し も の を ち か よ  
 殺 死 者 地 下

り ふ く か つ せ し め し と お き 、 て ん ぐ ん み な  
 復 活 時 天 軍 皆

よ び て い え え り 、 い の ち を た も う し ゆ  
 呼 日 生 命 賜 主

ハ リ ス ト ス わ が か み よ 、 こ う え い は な ん ぢ に  
 吾 神 光 榮 爾

き い す 。  
 歸

【 日本の亜使徒ニコライのトロパリ 第4調 】

し と と ひ と し く ど う ざ な る も の 、 ち ゆ う  
 使 徒 等 同 座 者 忠

じ つ に し て し ん ち な る ハ リ ス ト ス の え き し ゃ 、 せ い  
 實 神 智 役 者 聖

な る し ん に え ら ば れ た る ふ え 、 ハ リ ス ト ス の あ い  
 神 撰 笛 愛

に み ち た る う つ わ 、 わ が く に の こ う  
 満 器 我 國 光

しよ お しゃ、あしとしゅきょうせいニコライ  
 照 者 亜使徒主教聖  
 よ、なんぢのぼくぐんのため、および  
 爾 羊 群 爲 及  
 ぜんせかいのため、いのちをたもうせい  
 全世界 爲 生 命 賜 聖  
 さんしゃにいのりたまえ。  
 三者 祈 給

【 日本の亜使徒ニコライのコンダク 第4調 】

こうえいはちちとことおとせいしんにき  
 光 榮 父 子 お と 聖 神 歸  
 す、  
 せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが  
 成 聖 者 亜使徒聖 我  
 くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ  
 國 爾 旅 人 及 異 邦 人 受  
 しに、なんぢははじめわがくににおいておの  
 爾 初 我 國 於 己  
 れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの  
 外 來 者 知  
 ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて  
 光 暖 流 爾 敵

きをぞくしんのことなあし、かれらにか  
 屬神子爲 彼等神  
 みのおんちようをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて  
 恩寵 與 教 會 建  
 たり、いまこのきょうかいのためにいのり  
 今 此 教 會 爲 祈  
 たまあえ、けだしわれらそのしよしはなん  
 給 あ え 蓋 我 等 其 諸 子 爾  
 ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ  
 呼 我 善 牧 者 慶  
 べよ。

【 復活のコンダク 第2調 】

いまもいつもよよに、アミン。  
 今 何時 世 世  
 ぜんのおのきゆうせいしゅよ、なんぢはかよりふ復  
 全 能 救 世 主 爾 墓 復  
 くかつせしに、ぢごくはきせきをみて  
 活 地 獄 奇 蹟 見  
 おののき、ししはおき、ぞうぶ  
 慄 の き 死 者 起 お き 造 物  
 つはみてなんぢとともによろこび、アダムは  
 見 爾 偕 喜

と も に た の し い み 、 わ が き ゆ う せ い し ゆ  
共 楽 我 救 世 主  
よ 、 せ か い は つ ね に な ん ぢ を ほ め う と お  
世 界 常 爾 讃 歌  
お う。

司祭) ( 黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、  
ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有と  
なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、  
ねがものちえめいごとあつみおこなものすそのすくいためつうかい  
願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行おう者を棄てずして、其救の爲に痛悔  
たわれらいやふとうなんぢしよぼくこときおいなんぢせい  
を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な  
さいだんこうえいまえたなんぢとうぜんふくはいさんえいたてまつたもの  
る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる者と  
しゆさいなんぢみづかわれらざいにんくちせいさんうたうなんぢじんじ  
なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を  
もつわれらのぞわれらおよじゆうじゆうつみゆるわたましいからだ  
以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と  
せいわれらしょうがいぜんこうもつなんぢつとえたませいしょう  
を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生  
しんぢよこせいなんぢよろこびなしよせいじんきとうよ  
神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、 )

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世  
に、

ア ミ ン。

【 聖三祝文 】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる  
せい 神 聖 勇 毅 せい

じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ れ め  
 常 生 の 者 我 等 を 憐

よ 。 せい なる か み、 せい なる ゆ う き、 せい  
 聖 なる 神 聖 なる 勇 毅 聖

なる じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ れ  
 常 生 の 者 我 等 を 憐

め よ 。 せい なる か み、 せい なる ゆ う き、  
 聖 なる 神 聖 なる 勇 毅

せい なる じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ  
 聖 常 生 の 者 我 等 を 憐

れ め よ 。 こう え い は ち ち と こ と せい しん  
 光 榮 父 子 聖 神

に き す、 い ま も い つ も よ よ に、 ア ミ ン。  
 歸 今 何 時 世 世

せい なる じょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ  
 聖 常 生 の 者 我 等 を 憐

れ め よ 。 せい なる か み、 せい なる ゆ う  
 聖 なる 神 聖 なる 勇

き、 せい なる じょう せい の も の よ、 わ れ ら を  
 毅 聖 常 生 の 者 我 等

あ わ れ め よ 。  
 憐

司祭) ( 黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

こうえい ほうざ あ つね あが ほ いま いつ よよ  
の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、)

【 プロキメン 主日第2調 】

司祭) 慎みて聴くべし、衆人に平安、

誦經) 爾の神にも、

司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、主は、我が力、我が歌なり、彼は我が救となれり、

しゅ は わ が ち か ら 、 わ が う た な り 、 か れ は わ  
主 我 力 我 歌 彼 我  
が す く い と お な あ れ り 。  
救

誦經) 主は厳しく我を罰したれども、我を死に付さざりき、

しゅ は わ が ち か ら 、 わ が う た な り 、 か れ は わ  
主 我 力 我 歌 彼 我  
が す く い と お な あ れ り 。  
救

誦經) 主は、我が力、我が歌なり、

か れ は わ が す く い と お な あ れ り 。  
彼 我 救

【 アポストロス 使徒經 280半端 ティモフェイ前書1章15節～17節 】

司祭) 睿智、

誦經) 聖使徒パウエルがティモフェイに達する前書の讀、

司祭) 謹みて聴くべし、

誦經) 子ティモフェイよ、ハリストス イスは罪人を救わん爲に世に來たれり、此れ信なる、

まつた う ことば ざいにん うちわれだいいち しか わ あわれみ こうむ  
 全 く受くべき言 なり、罪人の中我 第一なり。然れども我が矜恤を蒙りしは、イ  
 ス ス ハリストスが先づ我に於て全 き寛 忍を示して後、彼を信じて永 遠の生命を得ん  
 ほつ もの もはん な ため ねが そんなけい こうえい ばんせい おう やぶ べ  
 と欲する者の模範と爲さん爲なり。願わくは尊 敬と光 榮とは、萬世の王、壊る可から  
 み べ どくいつえいち かみ むきゆう よ き  
 ず見る可からざる獨 一 睿智の神に、無 窮の世に歸せん、アミン。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) 我が子テモテよ、「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世にきて下さった」という言葉は、確実で、そのまま受け入れるに足るものである。わたしは、その罪人のかしらなのである。しかし、わたしがあわれみをこうむったのは、キリスト・イエスが、まずわたしに対して限りない寛容を示し、そして、わたしが今後、彼を信じて永遠のいのちを受ける者の模範となるためである。世々の支配者、不朽にして見えざる唯一の神に、世々限りなく、ほまれと栄光とがあるように、アアメン。

\*\*\*\*\*

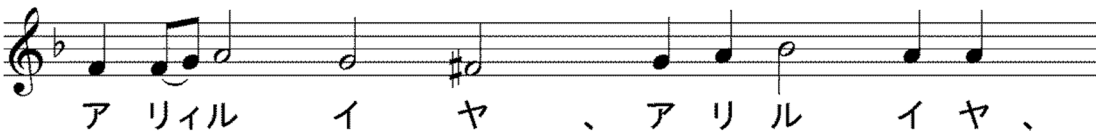
【 アリルイヤ 主日第2調 】

司祭) <sup>なんぢ へいあん</sup> 爾に平安、

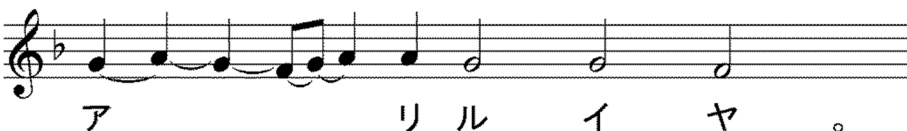
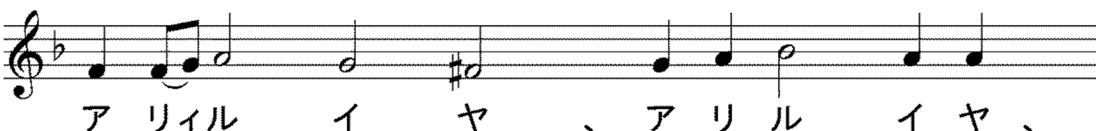
誦經) <sup>なんぢ しん</sup> 爾の神にも、

司祭) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) アリルイヤ、



誦經) <sup>ねが しゅ うれい ひ おい なんぢ き かみ な なんぢ ふせ まも</sup> 願わくは主は 憂の日に於て 爾に聴き、イアコフの神の名は 爾を扨ぎ衛らん、



誦經) <sup>しゅ おう すく またわれら なんぢ よ とき われら き たま</sup> 主よ、王を救え、又我等が 爾に呼ばん時、我等に聴き給え、



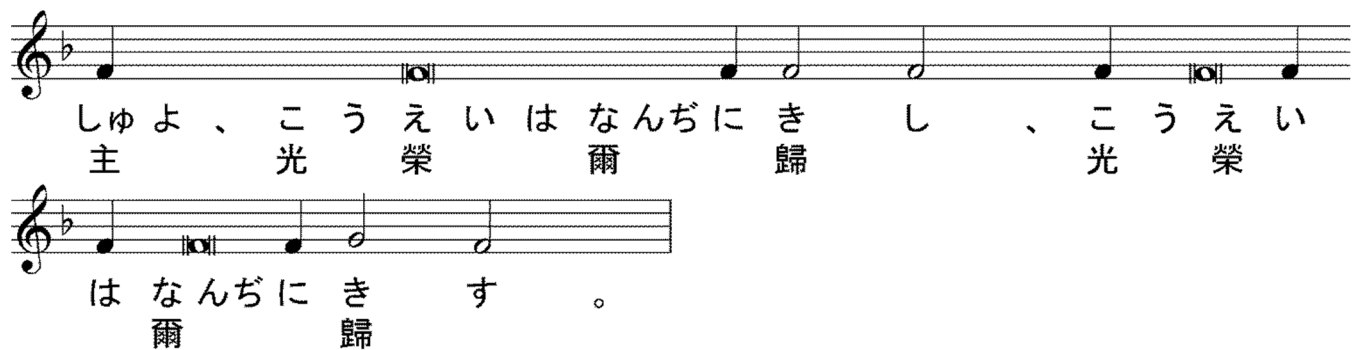
司祭) ( 黙誦：<sup>ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ し</sup>人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の<sup>ねん め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ</sup>浄き光を輝かし、我が思<sup>おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ</sup>念の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠<sup>ところ おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ</sup>を畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ<sup>なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいし</sup>所を思い且つ行いて、属神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神<sup>ぜん いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ</sup>よ、爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至<sup>善にして生命を施す 爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。 )</sup>

【 エヴァンゲリオン 福音經 ルカ福音書93端 18章35～43節 】

司祭) 睿智、肅みて立て聖福音經を聴くべし、衆人に平安、



司祭) ルカ傳の聖福音經の讀、



司祭) 謹みて聴くべし、彼の時イイス、イエリホんに近づける時、或瞽者道の旁に坐して乞えり。民の過ぐるを聞きて、是れ何事ぞと問えば、人人彼にイイスナゾレイの過ぐるなりと告げたり。彼呼びて曰えり、ダヴィドの子イイスよ、我を憐め。前に行く者彼を禁めて黙さしむれども、彼愈大に呼べり、ダヴィドの子よ、我を憐め。イイス止り



て、彼を携え来るを命じ、其近づきし時、之に問いて曰えり、我が爾に何を爲さんこ

とを欲するか。彼曰えり、主よ、我が見るを得んことを。イイスス彼に謂えり、見るを得よ、爾

の信は爾を救えり。彼直に見るを得、神を讚榮して、イイススに従えり。衆民是

を見て、讚美を神に歸せり。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) イエスがエリコに近づかれたとき、ある盲人が道ばたにすわって、物ごいをしていた。群衆が通り過ぎる音を耳にして、彼は何事があるのかと尋ねた。ところが、ナザレのイエスがお通りなのだと言われたので、声をあげて、「ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんで下さい」と言った。先頭に立つ人々が彼をしかって黙らせようとしたが、彼はますます激しく叫びつづけた、「ダビデの子よ、わたしをあわれんで下さい」。そこでイエスは立ちどまって、その者を連れて来るように、とお命じになった。彼が近づいたとき、「わたしに何をしてほしいのか」とおたずねになると、「主よ、見えるようになることです」と答えた。そこでイエスは言われた、「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った」。すると彼は、たちまち見えるようになった。そして神をあがめながらイエスに従って行った。これを見て、人々はみな神をさんびした。

\*\*\*\*\*

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえいは  
主 光 榮 爾 歸 し、 光 榮

はなんぢにきす。  
爾 歸

※聖体礼儀③ (金口イオアン聖体礼儀) へ